

達人に学ぶ 小児の発熱・皮膚疾患



発熱と皮膚疾患に対応できれば小児外来の9割はうまくいく

延べ20万人近い子どもを診てきた開業医の立場から断言できる。発熱(とその随伴症状)と皮膚疾患に対応できれば小児外来の9割はうまくいく。

この2分野は頻度が高く、診療の結果が素人にもわかりやすい。ミスをすれば、後医から正しい病名と転帰が伝えられ、保護者にも誤診とわかってしまう。誤魔化しがききにくく、プロとアマチュアの差が歴然としている。その分、達人から学べば上達を実感しやすい分野でもある。この特集の執筆陣は、最高の達人たちであると自信をもっている。

発熱分野については、私が直接語り合って、(あくまでも個人の感想であるが)「この人は本物だ」と感じた先生にお願いした。「小児の発熱なんて、風邪ばかりだろう」と思っている人でも考えを新たにする内容である。

皮膚分野については、尊敬する馬場直子先生(神奈川県立こども医療センター皮膚科部長)から貴重なご縁をいただいた。長濱通子先生(神戸ほくと病院皮膚科・美容皮膚科部長)には、ご執筆のみならず、プライマリ・ケア医が知っておくべき疾患の専門医の先生方をご紹介いただいた。ご著書に多大な影響を受けた中村健一先生(ドクターケンクリニック院長)にもご協力いただいた。ここに深く感謝申し上げる。

私の医師としてのテーマは、「境界を作らない」ことである。すべての診療科は患者さんのためと思うなら、同じ診療分野である。加えて、「卓越すること」が重要である。どうやっても敵わない匠の技を学び続けたい。いま、境界を越えた匠である先生方の金言の数々に、編者として、一読者として感動している。そして、この特集が子どもたちの未来を救う一冊になることを確信している。

[編集幹事]こだま小児科

児玉和彦